

2. 附属図書館

本学附属図書館は、大学図書館基準、学術審議会・中央教育審議会の答申・報告、社会からの要請等を考慮し、今後の目標として、下記の点を挙げている。

- ① 情報の収集及び発信，管理，保存基地としての図書館
- ② 研究，教育，学習の場を提供する図書館
- ③ 社会の要請に応える開かれた図書館
- ④ ゆとりある図書館

2.1 図書資料

2.1.1 蔵書冊数

(現状)

現在図書館管理の図書は約75万冊である。このうち開架図書は約30万冊、書庫内図書は約35万冊、研究室貸出図書は約10万冊である。利用者は開架・書庫内図書を自由に閲覧できる。

平成19年度に、蔵書冊数は約1万冊増加している。毎年蔵書冊数が増大し少しずつ狭隘化が進んでいる。このため、その対策として、書庫内図書の重複資料について、廃棄又は別置を4か年計画で行うよう準備を進めている。

(評価)

文部科学省の学術情報基盤実態調査を基に本学と同規模大学の図書館の蔵書冊数を比較すると、蔵書冊数は全国レベルを14万冊程度上回っている。また、利用者は開架・書庫内図書も自由に閲覧でき、蔵書数の多さを更に有効利用できている。

資料 2.1.1-1 附属図書館における蔵書冊数

(冊)

年 度	蔵書数		合計
	本館	分館	
平成19年度	625,621	123,545	749,166
平成18年度	618,557	120,194	738,751
平成17年度	611,963	116,874	728,837
平成16年度	604,825	113,492	718,317
全国平均	—	—	611,523

※「全国平均」は、「平成18年度学術情報基盤実態調査」による平成17年度同規模国立大学（2～4学部）の実績である。

2.1.2 年間受入図書冊数

(現状)

学術情報基盤実態調査と比較すると、本学の年間受入図書冊数（10,553冊）は全国平均（9,811冊）を上回っている（資料2.1.2-1参照）。

受入図書冊数については、分館は変動が少ないが、本館は減少傾向にあり、全体としては漸減傾向にある。

(評価)

年間受入図書数及びその購入分ともに、全国レベルに達している。

資料2.1.2-1 年間受入図書冊数 (冊)

区 分 年 度	年間受入図書		左記のうち購入分		左記のうち外部資金分	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館
平成19年度	7,202	3,351	4,826	2,161	453	440
	10,553		6,987		893	
平成18年度	7,654	3,320	5,323	2,057	623	513
	10,974		7,380		1,136	
平成17年度	8,283	3,382	7,081	1,324	456	204
	11,665		8,405		660	
平成16年度	9,607	3,886	8,588	2,041	355	196
	13,493		10,629		551	
全国平均	9,811		6,068			

※「全国平均」は、「平成18年度学術情報基盤実態調査」による平成17年度同規模国立大学（2～4学部）の実績である。

2.1.3 分野別図書収集状況

(現状)

本館では、社会科学が半分以上を占め、分館では利用分野を反映して自然科学分野（中でも医学分野の専門書）が大半を占めている（資料2.1.3-1参照）。分野に偏りはあるものの、分野横断的な新書シリーズを継続購読することなどにより、特定分野に集中しないよう配慮している。

(評価)

基本的に、本学の学部構成に見あった分野別図書収集状況となっているが、過度に、それが進行しないような措置が実施されている。

資料2.1.3-1 平成19年度分野別図書収集状況 (冊)

区 分	本館	分館	計	区 分	本館	分館	計
総 記	195	20	215	技 術	461	50	511
哲 学	293	92	385	産 業	330	9	339
歴 史	549	54	603	芸 術	212	15	227
社会科学	3,845	266	4,111	言 語	442	33	475

自然科学	583	2,769	3,352	文学	288	43	331
				合計	7,198	3,351	10,549

2.1.4 年間受入雑誌数

(現状)

受入雑誌数については、購入分については、本館・分館とも、研究費の減額により、教員の申し出によるタイトルの中止が進んでいる。平成19年度においては、分館備付雑誌の見直しも行ったため、購入分が減少した。一方で、本館・分館ともに、寄贈雑誌の受入を積極的に行っているため、全体として、受入雑誌数が増加している。

なお、学術情報基盤実態調査と比較すると、受入雑誌数全体は、平均値を下回っているが、購入分は、概ね平均値である(資料2.1.4-1参照)。

(評価)

購入雑誌タイトル数については、全国レベルに達している。

資料 2.1.4-1 平成19年度年間受入雑誌数

(タイトル数)

区 分 年 度	本 館		分 館		合 計	
	受入雑誌	うち購入分	受入雑誌	うち購入分	受入雑誌	うち購入分
平成19年度	1,816	838	985	504	2,801	1,342
平成18年度	1,852	961	920	606	2,772	1,567
平成17年度	1,056	1,001	940	609	1,996	1,610
平成16年度	1,151	1,097	982	649	2,133	1,746
全国平均					3,623	1,230

※「全国平均」は、「平成18年度学術情報基盤実態調査」による平成17年度同規模国立大学(2～4学部)の実績である。

2.1.5 年間図書資料購入費

(現状)

本館・分館ともに、図書館の図書購入費は減少しているものの、学部の図書購入費は増加している。また、外国雑誌を電子ジャーナルに変更したことにより、雑誌費が大幅に減少し、電子ジャーナル費が大幅に増加している。

図書館の図書購入費が減少傾向にあるため、同規模国立大学である統合7大学の状況を平成19年度に調査した。この結果、これらの大学の水準を下回っていたため、この水準に達するよう平成20年度全学共通経費を増額要求した。また、電子ジャーナルの購入価格の高騰に伴う財源の確保等の問題については、社団法人国立大学協会から文部科学省へ要望を提出しているとおり全国的に非常に問題となっているところであり、本学の電子ジャーナル費の値上がり分についても、平成20年度全学共通経費として要求した。

(評価)

昨年度の評価を踏まえ、他大学の状況を調査するとともに、予算要求を行ったことは評価できる。図書資料購入費を安定的かつ継続的に確保するために引き続き予算要求を行う必要がある。

資料 2.1.5-1 年間図書資料購入費

(単位：千円)

区 分		本 館			分 館		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
図書購入費	図書館	11,252	9,071	7,886	9,698	7,723	7,673
	学部	17,553	16,920	18,354	7,366	7,814	8,883
新聞・雑誌費	図書館	2,565	1,929	1,943	31,838	31,403	11,906
	学部	34,458	31,922	21,523	23,748	21,721	17,789
電子ジャーナル費	図書館	13,931	13,931	15,102	2,532	4,942	24,475
	学部	0	4,867	16,074	492	1,583	5,916
合計	図書館	27,748	24,931	24,931	44,068	44,068	44,054
	学部	52,011	53,709	55,951	31,606	31,118	32,588

2.2 利用者サービス

2.2.1 開館日・開館時間

(現状)

本館・分館とも、年末年始を除き年間を通して開館している（資料 2.2.1-1,2 参照）。本館では平成 12 年度から開館時間を延長し、平日は 22 時まで、休業期、土曜、日曜及び祝日も 19 時まで利用できるようにしている。また、分館では 24 時間開館を実施している。

(評価)

本館・分館ともに開館日、開館時間は高く評価できる。

資料 2.2.1-1 開館時間

期 間	本 館	分 館
月～金	9:00～22:00	9:00～20:00
月～金（休業期間）	9:00～19:00	9:00～20:00
土・日・祝日	10:00～19:00	10:00～17:00
年末年始(12/28～1/4)	休館	休館

資料 2.2.1-2 開館日数・開館時間数

区 分		H16	H17	H18	H19
年間開館総日数	本館	355	356	357	354
	分館	357	357	357	357
土曜開館日数	本館	51	50	49	46
	分館	51	50	49	51
休日開館日数	本館	65	65	65	65
	分館	65	65	65	65
土曜開館総時間数	本館	459	450	441	414
	分館	357	350	343	357
休日開館総時間数	本館	585	585	585	585
	分館	455	455	455	455

休日時間外開館時間数を除く 時間外開館総時間数	本館	1,509	1,500	1,500	1,486
	分館	1,080	1,076	1,072	1,080
1日当たりの時間外開館時間数 (平日)	本館	5	5	5	5
	分館	3	3	3	3
1日当たりの時間外開館時間数 (土・日、祝)	本館	9	9	9	9
	分館	7	7	7	7

2.2.2 閲覧サービス体制

(現状)

本館4名、分館3名で閲覧サービスと相互貸借業務を担当し、常時2名を閲覧カウンターに配置する体制をとっている。また、夜間開館時にも、常時2名のスタッフを配置するなど閲覧サービスの充実に努めている。

なお、高度化する図書館サービスへの対応等により、平成19年度から、分館の閲覧サービスは、外部委託することになり、平成20年度は本館も実施することとしている。

(評価)

現状の体制の中では、十分評価できる。

資料 2.2.2-1 閲覧サービス担当スタッフ数

(人)

区分 年度	常勤職員		非常勤職員		派遣職員		外部委託		合計		時間外職員(※)	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
19	1	0	2	0	1	0	0	3	4	3	2	2(1)
18	1	2	2	1	1	1	-	-	4	4	2	2
17	1	1	2	1	1	1	-	-	4	3	2	2
16	2	2	2	1	0	0	-	-	4	3	2	2

※ 時間外職員は体制人数

※ () は外部委託で内数

2.2.3 利用対象者数

(現状)

本館では、学内者の利用者についてはほとんど変動がないが、一般利用登録者については、漸減の傾向にある(資料2.2.3-1参照)。

分館では、平成16年度以降の一般利用者へのサービス拡大や、学内広報誌における広報の効果を反映して、一般利用の登録者は少しずつ増えている。なお、本館に比べ一般利用者の登録者数が極端に少ないのは、地理的要因や、駐車料金の負担が一因と考えられる。

(評価)

本館の一般利用者の登録者数が漸減傾向にあることに注意し、今後の推移を見守る必要がある。

資料 2.2.3-1 利用登録者数

(人)

区分	学生数	院生数	教職員数	一般利用者数	合計
----	-----	-----	------	--------	----

年度	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
19	4,333	872	542	183	835	1,435	845	91	6,555	2,581
18	4,441	833	545	160	694	1,164	991	87	6,671	2,244
17	4,422	838	502	191	648	1,152	1,200	40	6,772	2,221
16	4,419	846	521	375	650	1,152	1,460	24	7,050	2,397

2.2.4 入館者数

(現状)

本館の入館者数は、減少傾向にあったが、平成19年度は増加に転じている。また、一般利用者の入館者数は、毎年11,000～14,000人となっているが、これは、全国立大学の平均を大きく上回る数値である。

分館では、増加傾向にあった入館者数が、平成19年度に減少しているが、一般利用者については、本館に比較すると少数であるが、着実に増加している。

(評価)

分館の入館者数が減少に転じたことに注意し、今後の推移を見守る必要がある。

資料 2.2.4-1 入館者数 (人)

年度	入館者数		一般利用者数	
	本館	分館	本館	分館
平成19年度	356,190	89,459	11,129	1,284
	445,649		12,413	
平成18年度	347,361	103,067	14,262	1,118
	450,428		15,380	
平成17年度	360,062	98,700	11,668	1,235
	458,762		12,903	
平成16年度	371,793	95,438	12,416	869
	467,231		13,285	
全国平均	—		851	

※一般利用者数は入館者数の内数

※「全国平均」は、「平成18年度学術情報基盤実態調査」による平成17年度同規模国立大学(2～4学部)の実績である。

2.2.5 資料の貸出

(現状)

資料の貸出条件は、本館・分館ともに、利用者及び資料の区分によって設定している。本館では、一般貸出のほかに、特別貸出や卒業論文用貸出などの貸出種別を設けて、学生への利便性の向上を図っている。また、近年、本館において、長期に渡る延滞者が増加しているため、平成19年度から、分館と同様に延滞日数に応じたペナルティを課したところである。

(評価)

従来からの経緯をみても、資料の貸出における冊数及び期間とも問題ない。また、本館のペナルティを見直したことは妥当であり評価できる。

資料 2.2.5-1 本館貸出条件表(利用規程第8条, 第10条関係)

区 分	貸出冊数及び貸出期間			
	法人教員	本学大学院学生 本学名誉教授 非常勤講師・医師 研究員等	法人役員及び職員(教員 及び非常勤講師並びに 医師を除く。) 本学学部学生等 一般利用者	本学学生であっ て卒業論文等を 提出する者
開架図書 (雑誌を含む)	5冊以内 2週間	5冊以内 2週間	5冊以内 2週間	5冊以内 1か月間
書庫内図書	200冊以内	20冊以内 1か月間		

備考：上記の期間にかかわらず、雑誌の貸出期間は原則として1週間とする。

資料 2.2.5-2 分館貸出条件表(利用規程第8条, 第10条関係)

区 分	貸出冊数			貸出期間
	法人役員及び職員並 びに本学大学院学生 研究員等	本学学部学 生等	本学名誉教授 一般利用者	
図 書	10冊以内	6冊以内	6冊以内	2週間
製本雑誌 未製本一般雑誌	5冊以内			1週間
未製本学術雑誌	5冊以内			2日間
合 計 貸出冊数	10冊以内	6冊以内	6冊以内	

2.2.6 貸出人数・貸出冊数

(現状)

本館については、貸出人数・貸出冊数ともに、全体的に減少傾向にある。特に、平成19年度に貸出冊数が大幅に減少したのは、延滞日数に応じたペナルティを新たに課したことが影響していると考えられる。

分館では、学生及び教職員については、貸出人数・貸出冊数ともに多少増減があるが、一般利用者については、着実に増加している。これは、平成17年度から、一般利用者コーナーに加え、雑誌を除く一般図書も学内者と同様に貸出可能になったことが一因と考えられる。

なお、学術情報基盤実態調査と比較すると、貸出冊数は平均値を上回っており、特に一般利用者の貸出冊数については、平均値を大幅に上回っている(資料2.2.6-2参照)。

(評価)

貸出冊数が全国平均を上回っていることは評価できる。本館の学生については、貸出人数、貸出冊数ともに減少傾向にあることに注意し、今後の推移を見守る必要がある。

資料 2.2.6-1 貸出人数

(人)

区分 年度	学生		教職員		一般利用者		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
19	17,408	5,419	1,829	959	2,539	205	21,776	6,583
	22,827		2,788		2,744		28,359	
18	20,261	5,841	2,043	843	3,011	198	25,315	6,882
	26,102		2,886		3,209		32,197	
17	21,968	6,264	2,192	903	3,574	146	27,734	7,313
	28,232		3,095		3,720		35,047	
16	22,693	5,538	2,089	971	3,509	39	28,291	6,548
	28,231		3,060		3,548		34,839	

資料 2.2.6-2 貸出冊数

(冊)

区分 年度	学生		教職員		一般利用者		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
19	34,956	11,005	6,322	1,968	6,996	574	48,274	13,547
	45,961		8,290		7,570		61,821	
18	39,250	11,900	6,771	1,926	8,925	543	54,946	14,369
	51,150		8,697		9,468		69,315	
17	41,828	12,703	7,086	1,845	9,879	370	58,793	14,918
	54,531		8,931		10,249		73,711	
16	44,198	11,455	8,492	1,915	9,706	95	62,396	13,465
	55,653		10,407		9,801		75,861	
全国平均	41,750		6,985		1,395		50,130	

※「全国平均」は、「平成 18 年度学術情報基盤実態調査」による平成 17 年度同規模国立大学（2～4 学部）の実績である。

2.2.7 研究室貸出状況

(現状)

本館では、研究費で購入した図書館資料を各教員の研究室に貸出している。研究室貸出資料の多くは、教員の退職等の際に図書館に返却されており、研究室貸出冊数は、全蔵書冊数の約 12% に当たる 7 万 3 千冊程度であり、減少傾向にある。

分館でも、研究費で購入した図書館資料を各研究室に貸出しており、研究室貸出図書は全体の約 20% に当たる 2 万 4 千冊程度である。分館の研究室貸出方式は、本館と異なり、基本的に個人でなく講座単位で貸出を行っている。このため、個々の教員の退職等に伴い返却されることが少ないため、研究室貸出図書の割合は今後も少しずつ増えていくことが予想される。

なお、本館については、現在は原則としてコンピュータにより貸出をしているが、目録データ化されていない古い資料については、過去に借用券で貸出手続きを行ってきており、これらは、全研究室貸出冊数の 20% 程度を占めている。借用券による貸出冊数は、定年退職に伴う返却等により、今後減少していくことが予想されるが、遡及入力作業の一環として借用券貸出をコンピュータ貸出に切替え

る作業も随時行っているところである。

(評価)

借用券による貸出を減らす努力は評価できる。

資料 2.2.7-1 研究室貸出状況 (冊)

区 分	本 館	分 館	合 計
平成 19 年度	73,295	24,450	97,745
平成 18 年度	77,352	23,855	101,207
平成 17 年度	80,322	22,234	102,556
平成 16 年度	85,305	21,285	106,590

2.2.8 予約サービス体制

(現状)

本館では、利用者の申込み方法として、従来からのカウンターでの申込みがあるが、平成 17 年度から利用者自身により、マイライブラリや所蔵検索画面上からも申込みができるようになった（研究室貸出図書を除く）。このため、平成 18 年度については、予約件数が増加している。しかし、平成 19 年度については、減少している。これは、耐震工事の影響で研究室貸出の資料が梱包され、予約して利用に供することができなかったことが影響していると考えられる。

分館では、以前より利用者自身が予約システムを利用可能であり、予約システムは学内に周知されているにもかかわらず、その使用件数はこれまで年々減少傾向にあった。しかし、平成 19 年度については、本館・分館の図書館業務システムの統合により、本館の資料についても利用者が直接予約することが可能となったため、増加に転じている。

(評価)

両館の図書館業務システムの統合により、予約サービス体制が一層整備されたことは評価できる。

資料 2.2.8-1 総予約件数 (件)

年 度	本館	分館	合計
平成 19 年度	427	143	570
平成 18 年度	537	82	619
平成 17 年度	394	280	674
平成 16 年度	354	385	739

2.2.9 参考調査

(現状)

本館では参考調査件数については、学内利用者に比べ、一般利用者からの調査依頼件数が相対的に多い。

分館では、所蔵調査がほとんど、事項調査は少ない。最近では、一般利用者が図書館ホームページの OPAC を検索して、その結果に基づいて電話による問い合わせを受けることが多い。また、分館で利用できる医学系のデータベースを目的に来館し、利用指導を受ける一般利用者も増加傾向にある。なお、

平成 19 年度における分館の参考調査件数の増加は、ガイダンス実施回数の増加と、これまで参考調査として取り扱っていなかった調査内容を集計対象としたことによるものである。

なお、学術情報基盤実態調査と比較すると、参考調査件数は、利用者別、内容別ともに平均値を大幅に上回っている（資料 2.2.9-1,2 参照）。

（評価）

参考調査件数が全国平均を上回っていること、また、大学図書館のサービスが学外にも浸透したことは評価できる。

資料 2.2.9-1 利用者別参考調査件数 (件)

区分 年度	学生		教職員		一般利用者数		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
19	2,527	1,688	2,731	705	1,168	488	6,426	2,881
	4,215		3,436		1,656		9,307	
18	2,570	833	3,135	240	1,320	251	7,025	1,324
	3,403		3,375		1,571		8,349	
17	2,228	637	3,342	633	1,334	315	6,904	1,585
	2,865		3,975		1,649		8,489	
16	1,954	521	2,930	518	2,190	258	7,074	1,297
	2,475		3,448		2,448		8,371	
全国平均	2,052		1,029		661		3,742	

※「全国平均」は、「平成 18 年度学術情報基盤実態調査」による平成 17 年度同規模国立大学（2～4 学部）の実績である。

資料 2.2.9-2 内容別参考調査件数 (件)

区分 年度	文献所蔵調査		事項調査		利用指導		その他		合計	
	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館	本館	分館
19	2,383	898	1,062	13	2,114	1,218	867	752	6,426	2,881
	3,281		1,075		3,332		1,619		9,307	
18	2,784	436	1,071	26	2,155	690	1,015	172	7,025	1,324
	3,220		1,097		2,845		1,187		8,349	
17	2,787	1,014	1,068	33	2,136	490	913	48	6,904	1,585
	3,801		1,101		2,626		961		8,489	
16	3,056	830	724	26	1,810	402	1,484	39	7,074	1,297
	3,886		750		2,212		1,523		8,371	
全国平均	1,758		288		1,553		143		3,742	

※「全国平均」は、「平成 18 年度学術情報基盤実態調査」による平成 17 年度同規模国立大学（2～4 学部）の実績である。

2.2.10 情報検索

（現状）

図書館内で主要新聞の記事データベース及び判例の検索が行える環境を整えている。本館では、新

聞記事及び判例の検索データベースについて主要なものを Web, CD-ROM, DVD で提供しており, 分館では主要な医学, 看護, 薬学系のデータベースを WEB 上で検索できる環境を整えている。

また, 平成 19 年度から, CiNii を機関契約しており, データベースの充実を図ったところである。

(評価)

本館・分館とも, 利用者の要求を満たす検索データベースは整備されており評価できる。

資料 2.2.10-1 情報検索データベース

本館	日経 4 誌全文記事検索 (CD-ROM 版, DVD 版)
	戦後 50 年朝日記事見出し (CD-ROM 版)
	明治・大正・昭和読売新聞 (CD-ROM 版)
	主要法律雑誌 (DVD 版)
	第一法規法情報総合データベース
	理科年表プレミアム (WEB 版)
分館	CINAHL (WEB 版)
	Cochrane (WEB 版)
	MEDLINE (WEB 版)
	医中誌 (WEB 版)
	Journal Citation Report (WEB 版)
共通	CiNii
	朝日新聞全文記事データベース 聞蔵 (WEB 版)

2.2.11 電子ジャーナル

(現状)

約 4,800 タイトルの電子ジャーナルを購読しており, 主要な電子ジャーナルパッケージは学内の研究室等から全文のダウンロードが可能となっている。

平成 19 年度において年間のダウンロード回数は約 11 万件である。特に Elsevier 社の利用回数が全体の 63% を占めている。出版社毎に増減はあるが全体としては毎年, 利用回数が増加している。

また, 費用対効果のため, e-only 化等の見直しを進めたが, 引き続き電子ジャーナルの見直しが必要である。

(評価)

各分野の代表的な電子ジャーナルは購読しており, 購読タイトル数としては水準を満たしているため評価できる。

資料 2.2.11-1 各出版社別電子ジャーナル 平成 19 年度ダウンロード件数 (件)

ジャーナル	収録タイトル	タイトル数等	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
Springer	全分野	1,280	4,533	4,689	5,213	5,862
Wiley	全分野	480	4,904	5,527	6,680	8,508
Elsevier	全分野	1,989	65,820	69,641	65,253	68,849
IEEE CSLSP	コンピュータ系	26	1,142	2,093	2,621	1,168
ACS	化学系	34	4,805	6,436	9,964	12,645

Nature	本誌 + 生物医学系	9	4,164	4,578	2,474	882
Blackwell	全分野	797	5,582	4,818	6,819	8,067
Oxford	全分野	166	契約なし	契約なし	3,529	3,319
合計		4,781	90,950	97,782	102,553	109,300

2.2.12 他館利用制度

(現状)

大分県内の大学図書館間では学生証による相互利用が可能である。また、大分県立図書館との間で相互利用協定を結び、双方で文献複写や現物貸借ができるようにしている。一方、平成15年から横断検索を開始し、大分県立図書館と大分大学附属図書館の蔵書を同時に検索できるシステムを構築した。

平成17年度から、横断検索サービスに新たに4大学等が参加し、さらに、平成19年度には、県内10公立図書館を新たに追加し、県内図書館資料利用の利便性が向上した。また、本検索サービス開始とともに、県内公共図書館に対して本学図書館所蔵資料の貸出及び文献複写サービスの試行を開始したところである。

分館では、平成15年度から横断検索に参加している。また、大学統合に伴い平成17年度より大分県立図書館との相互利用協定に参加し、徐々に相互利用が活発になりつつある。

(評価)

着実に横断検索の参加館が増えており評価できる。

資料 2.2.12-1 横断検索参加館

年度	参加館
平成19年度	大分大学, 大分大学(医学分館), 大分県立図書館, 別府大学, 日本文理大学, 大分県立芸術文化短期大学, 大分工業高等専門学校, 公立図書館10館
平成17・18年度	大分大学, 大分大学(医学分館), 大分県立図書館, 別府大学, 日本文理大学, 大分県立芸術文化短期大学, 大分工業高等専門学校
平成15・16年度	大分大学, 大分大学(医学分館), 大分県立図書館

資料 2.2.12-2 大分県立図書館との相互協力状況 (件)

内 訳	本 館		分 館	
	依頼	受付	依頼	受付
平成19年度	128	42	27	6
平成18年度	145	26	1	1
平成17年度	119	20	0	0
平成16年度	102	16	—	—

2.2.13 相互貸借利用状況

(現状)

全国平均に比べ文献複写の依頼件数が非常に多い(資料 2.2.13-1 参照)。文献複写の依頼・受付件数は以前よりは減少傾向にあるが、これは電子ジャーナルの利用が増加しているためと考えられる。また、現物貸借の依頼・受付件数が増加傾向にあるのは、大分県立図書館との相互利用が活発になっ

てきていることを反映したものである。

なお、文献複写料金等（私費）の時間外開館時における収納手続きについて、平成 20 年度実施に向けて検討を行っている。

（評価）

現物貸借の活発な点は、大いに評価できる。

資料 2.2.13-1 相互貸借利用状況

（件）

年 度	区 分	文献複写		現物貸借	
		依 頼	受 付	依 頼	受 付
平成 19 年度		5,811	2,576	354	306
平成 18 年度		5,997	3,023	417	299
平成 17 年度		6,183	3,734	213	221
平成 16 年度		7,245	4,130	191	198
全国平均		2,123	2,719	189	190

※「全国平均」は、「平成 18 年度学術情報基盤実態調査」による平成 17 年度同規模国立大学（2～4 学部）の実績である。

2.2.14 図書館の地域貢献

（現状）

本館では、読み聞かせボランティアの協力により、読み聞かせ会を月一回程度開催するほか（資料 2.2.14-1）、大学開放イベントにあわせて、子供を対象とした催しや、廃棄図書の無償配布等を実施している（資料 2.2.14-2）。

また、分館では、平成 20 年 1 月から、地域における医学及び医療の発展に寄与するために、大分県内の医療従事者を対象として、本学附属図書館のほか、他大学図書館等が所蔵する文献を配送するサービス（医学文献デリバリーサービス）を開始したところである。

（評価）

一般利用者への図書館資料の閲覧・貸出サービスのほかに、様々な取り組みを行っていることは大いに評価できる。

資料 2.2.14-1 読み聞かせ会

年 度	開催回数（回）	参加者数（人）		
		児童	保護者	合計
平成 19 年度	9	31	28	59
平成 18 年度	10	83	53	136
平成 17 年度	8	68	47	115
平成 16 年度	7	92	65	157

年 度	実施概要	来館者数
平成 19 年度	平成 19 年 11 月 4 日（日）10 時～17 時 1. 読み聞かせ会 2. まざまな「水」に関する図書館資料展示 3. 身近な水を検査してみよう！ 4. パネルで“水問題”を考えます 5. 一般・娯楽雑誌の無償配布	1,448
平成 18 年度	平成 18 年 11 月 5 日（日）10 時～16 時 1. 学生との遊びを交えたおはなし会 2. こども劇場（人形劇，紙芝居，絵本読み聞かせ） 3. 一般・娯楽雑誌の無償配布	1,165
平成 17 年度	平成 17 年 11 月 6 日（日）10 時～16 時 1. 絵本展 ①荒井良二作品展，②読み聞かせ会（11 時及び 14 時） 2. 廃棄図書の無償配布 3. 写真展（学内の野鳥）	854
平成 16 年度	平成 16 年 11 月 7 日（日）10 時～16 時 1. 貴重書展 ①府内城絵図，②石垣原合戦絵図，③豊後国絵図外 2. 絵本展 ①ロシアの絵本，②仕掛け絵本 3. 読み聞かせ会 4. 廃棄図書の無償配布	948